

【河川】実際の避難行動を考慮した地域オリジナルの洪水対応の取組

平成30年10月12日
山形河川国道事務所

～まるごとまちごとハザードマップの展開！！～

1. 経緯／概要

- 山形河川国道事務所では、近年全国各地で発生している大規模な水害を考慮し、命を守る行動を実践する施策の一つとして『まるごとまちごとハザードマップ』の取組みを行っています。
- 『まるごとまちごとハザードマップ』とは、市町などで作成される洪水ハザードマップの情報をまちなかに標示することで、地域の防災意識を高め、いざというときの安全かつスムーズな避難につながるものです。
- 平成27年5月の水防法改正に伴い、河川整備の将来目標とする『計画規模』の降雨から、『想定し得る最大規模』の降雨を前提とした洪水浸水想定区域に見直されたことを受けて『まるごとまちごとハザードマップ』の取組みを行っています。

第1回検討会

【日時】平成30年10月12日(金)18:30～

【場所】長井市館町自治公民館

【参加機関】長井市館町南地区会、長井市館町北地区会、長井市、山形河川国道事務所 30名

2. 主な内容

- ①地元説明会(8月24日)
- ②第1回検討会
 - ・危険箇所、防災活動に約立つ施設の確認
 - ・避難する際の指標となるものの確認
 - ・手助けが必要な方等の洗い出し
 - ・避難ルートを机上で想定
- ③第2回検討会(現地確認含む)
- ④第3回検討会(まとめ)

3. 検討会の様子

